

人文学部

英語コミュニケーション学科

英語に触れる、力を伸ばす

特別なことはしていない？
普段の学びが英語力アップの鍵

TOEIC IP **920点** 取得

英検 **準1級** 合格

英語力を伸ばしたキリ学生に聞く



本学では毎年多くのTOEIC高得点者、英語技能検定上位級合格者が誕生しています。その中で今回TOEIC IPテストで920点を取得した小濱さん（3年次）と、実用英語技能検定準1級に合格した大城さん（2年次）にどのように英語力を伸ばしたのかお話を伺いました。

Q. 二人の入学時の英語力は？
小濱さん：入学前に実用英語技能検定（以下英検）と、準2級に合格していました。大学3年生になって、自分の英語力がどの程度なのか知りたいと思い、2024年の7月に初めてTOEIC IPテストを受けてみたら、860点でした。そこで自信がついて2025年1月の試験では920点まで伸ばすことが出来ました。

大城さん：私は入学前には英検2級に合格していました。1年次の終わりで英検を受ける友達が多かったのですが、私も1年でどれくらい英語力が身についたかを確認するつもりで準1級を受験しました。PASSしたときはとても嬉しかったです。

Q. 大学の講義で英語力が伸びたと感じた部分はありますか？
小濱さん：Paragraph Writingの講義で英語の文章を書く力が確実に伸びましたね。あと英語講義の講義で読む力がついたと思います。英コミでは、4技能を並行して学ぶので、自然と全体の英語力が伸びていった感じがします。最初にTOEICの練習問題をやった時に、思ったよりも問題が解けたので驚きました。正直言うと、講義で出た課題と毎日向き合っていたら自然と英語力が伸びていた、という感じなんです。

大城さん：私も英語講義の講義が特に印象に残っています。毎回すごい量の長文を読まされて！（笑）、かなりきつかったんですが、そのおかげで英検の長文問題を見ても臆することなく解くことが出来ました。小濱さんと同じになりますが、私も講義の課題に必死でくらいついていたら、英語力が伸びていた感覚です。

Q. 大学の講義以外でそれぞれの勉強方法を教えてください。
小濱さん：基本的には、大学の図書館で「公式TOEIC Listening & Reading 問題集」のテキスト

**英語コミュニケーション学科3年次
小濱弘介さん（北谷高校出身）**

私は高校時代、教員免許取得が目的で英語を勉強していましたが、大学入学後には毎日英語に触れ、「Oral Communication」の講義で英語を話す機会が多く、街中で外国人に話しかけられても対応できるようになりました。

**英語コミュニケーション学科2年次
大城萌依さん（向陽高校出身）**

私は英語が好きで、少人数制の学びや雰囲気の良いからキリ学を選びました。入学後は毎日英語に触れ、「Oral Communication」の講義で英語を話す機会が多く、街中で外国人に話しかけられても対応できるようになりました。

今回お話を聞かせてくれたのは…

トを繰り返しました。リスニング対策も公式問題集を何度も聞いているうちに慣れていきました。また、「SANTALUK」というアプリを使って毎日コツコツと勉強していました。

大城さん：私は過去問題集を徹底的にやりました。わからなかった単語を全部ノートに書き出して、地道に覚える作業の繰り返しでした。リスニング対策としてやったことは、車の移動中にずっとBGM代わりに過去のリスニング問題を流して聞いていました。

Q. 今後の目標を教えてください。
小濱さん：TOEICの公開テストで950点越えを目指しています。また、3月に受ける英検準1級2次試験もPASSしたいです。

大城さん：TOEIC IPテストを受けたことがないので、それを受けてまずは700点越えを目指します。

小濱さん：いや、800点って言うてもいいんじゃないですか。

大城さん：それはちょっと、（笑）まずは700点越えを目標とさせてください。

※取材中も、お互いがそれぞれの試験対策について情報交換をしていて、学びの意識の高さに感心しました。（取材・企画推進課 森）

学生サークルLadybirdが 内閣府特命担当大臣表彰を受賞



本学の学生サークル「Ladybird」は、本学英語コミュニケーション学科の学生たちによって結成され、「生理の貧困」問題の解決に取り組んでいます。学内のトイレへの生理ナプキンの設置に加え、県内各地で出前授業を行い、生理やその貧困に関する周知活動を展開。

このたび「Ladybird」は、2024年11月18日に開催された第2回「未来をつくる こどもまんなかアワード」において、未来をつむぐ「こども・若者」部門で内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

受賞を受け、サークル長の天願希珠南さんは「Ladybirdの活動の大切さを実感し、今後も継続していくことが重要だと改めて感じた」と話していました。

ENGLISH COMMUNICATION DEPARTMENT NEWS

BREAKING NEWS

本学院 英語教育センター(Centre for English Education)
\\ 1周年記念企画 //

センター長Christopher Valvona 教授による

特別公開講座を開催

テーマ 学生自身のニーズに合う学びを促進
: TBLTとタスクを用いた言語学習の利点

日時 7/12(土) 14:00~15:00

講演会の詳細は、本学HPやSNSで随時更新！
お申し込みや最新情報はこちらから

沖縄キリスト教学院大学 人文学部
英語コミュニケーション学科



英語教育センター長
Christopher Valvona 教授



本学学生が国連本部で ユース代表としてスピーチ



2025年3月、米ニューヨーク国連本部で開催された国連女性の地位委員会(CSW69)に、本学の学生が日本YWCAのユース代表として派遣されました。派遣されたのは、英語コミュニケーション学科4年次の松田明さんと、3年次の徳田彩さん。

松田さんは「CSW69に参加し、発表の機会をいただけたことで、アメリカを含め多くの国の方々に沖縄の現状について伝えることができた。また、期間中は女性や若者のエンパワーメントについて多くのことを学び、とても有意義な時間となった」と語りました。

うちなーぐちで世界人権宣言を群読



2024年12月21日、「SDGs全国フォーラム2024沖縄」にて、本学の学生(4年次7名)が、うちなーぐちに翻訳した世界人権宣言の群読を行いました。7名は、言語学を専門とする英語コミュニケーション学科・新垣友子教授のゼミ生。群読では、英語のフレーズや沖縄の子守歌「ねさせ歌」も取り入れたパフォーマンスを披露。本プロジェクトは、沖縄語普及協議会の話者との協力のもと、約2か月半の準備を経て完成しました。すべての人が大切にされる社会の実現を目指し、学生たちは「みんな大切なうちなーぐちいなー(一人ひとり)」というメッセージに想いを込めました。

この取り組みは、沖縄らしいSDGsの実践として、沖縄語話者と若い世代が力を合わせた「言葉のリレー」として注目されています。

教員採用試験(中学校英語)に現役合格!



2024年度の教員採用試験(中学校英語)において、英語コミュニケーション学科4年次の古郷みさんが現役合格しました。

古郷さんは「2次試験の模擬授業は難しかったが、先生方のマンツーマン指導のおかげで、自信を持って試験に挑むことができた」と、話していました。

合格発表後の10月、古郷さんは試験で行った模擬授業を教職課程履修者の前で発表しました。自身の経験を振り返りながら、授業の工夫や改善点を共有し、今後の指導法を考える機会となりました。

学校ボランティア実習で学ぶ教育の現場

西原町の小・中学校で学生が多岐にわたる活動を体験



学校ボランティア実習は、西原町教育委員会との覚書に基づく「学校教育支援事業」として実施しており、教職科目を受講する学生が西原町内の小・中学校でボランティアを行うものです。

2019年にスタートしたこの事業では、実習先で学習支援、授業補助、学級事務補助など多岐にわたる活動を行っています。

2024年度実習を行った2年次の藤井絵麻さんは「教師という仕事の大変さを実感した。それでも生徒たちから積極的に話しかけられたのが嬉しかった」と振り返りました。